

令和 4 年度

龍谷大学付属

平安高等学校入学試験問題

国語

解答上の注意

1. この問題用紙は、「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
2. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。特に、解答用紙の受験科目欄にマークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。
3. 「はじめ」の合図のあと、受験番号を書き、マークしてください。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。たとえば、**10** と表示のある問いに対して、③を解答する場合は、次の(例)のように解答番号 10 の解答欄の 3 にマークしてください。(例)

解答 番号	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
10	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>0</u>
11	<u>1</u>	<u>2</u>	<u>3</u>	<u>4</u>	<u>5</u>	<u>6</u>	<u>7</u>	<u>8</u>	<u>9</u>	<u>0</u>

5. 解答用紙は機械で読み取りますので、折り曲げたり汚したりしないでください。特に、訂正する場合には、消しゴムで丁寧に消してください。
6. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
7. 問題内容についての質問は受けません。(問題は持ち帰ることができません。)
8. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
9. 「やめ」の合図があったら、解答用紙を表に向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。

(問題は持ち帰ることができません。)

受験番号

受験番号

問題は次のページから始まります。

国語

(解答番号

1

29

101

105

)

第1問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ウォーホルの『プレスリー』95億円で落札」——これは、2014年11月4日に『日本経済新聞』で紹介された記事のタイトルです。「ウォーホル」とは、※ポップアートの巨匠アンディ・ウォーホルのこと。「プレスリー」とは、歌手のエルビス・プレスリーが描かれた作品「トリプル・エルビス」を指しています。

アート作品の高額落札のニュースは、今やめずらしくありません。しかし、Aなぜアートがこれほど高く取引されるにいたったのか、その原理を説明することは容易ではないのです。

なぜなら、アートの価値はきわめてX的に決められているからです。車やスマートフォンとは異なり、アートには「それそのもの」に価値がありません。ある社会の状況や市場の動静によってその価値はつねに変動します。社会情勢に影響されて株価が変動するのと同じように、無数の要因が折り重なってその価値に影響をおよぼすのです。

ただ、株価とアートには異なる点もあります。今でこそ写真や映像も立派なアートのひとつとされていますが、本来アートの①オウドウは絵画や彫刻でした。そして、②マーケットを含むアートの制度はすべて、これらの古い③メディアを基準につくられました。

その特性は「一点もの」を重視する考え方です。たとえば、あなたが大の④※フェルメール好きの大富豪で、彼の作品を100点集めた美術館を造りたいと考えたとしても、フェルメールの作品は世界に⑤30点ちよっとしか存在しません。

莫大な⑥お金を積み上げても、フェルメールの作品を100点集め

ることはできない——そうならば必然的に、⑦ゲンズンしている30点ちよっとに世界中の需要と富が集中することになります。つまり、アートの価値が天井知らずに上昇する背景には、「希少性」に基づくシンプルな原理が働いているのです。

一点ものを重視する価値観は、アートの世界にB独特の制度を生み出しました。それは「エディション」というシステムです。写真や映像と絵画や彫刻との大きな違いは、複製が可能か否かという点にあります。

ウォーホルは、写真などの複製イメージを⑧※シルクスクリーンでさらに複製するという手法で、多くの作品を制作していました。そのあり方を象徴するのが、ドルサインと題された一連のシリーズです。タイトルが示すように、ドルの記号が印刷されたこのシリーズは、技術的にはいくらでも刷り増しをすることができます。

一般的に、作品を無限に複製することは認められていません。写真や映像などの複製メディアであっても、すべての作品には「エディション」と呼ばれる個体名を記すことが暗黙のルールとされています。「ed・1/50」と記されていれば、全50点ある複製中の1点目ということになります。

もし、ウォーホルの作品を無限に刷り増しできれば、1点あたりの作品価格は劇的に下がります。紙幣が多く発行されると1枚あたりの実質的な価値が下がるのと同じ現象です。

アート・マーケットでは、作品の価値を下げないために、複製品は「エディション」でその数を抑え込んで、価格の下落を防止したり、時にはその数をわざと少なく発行することによって、1点あたりの価値を上昇させたりといった戦略を取ることも行われています。

ウォーホルが「ドルサイン」を制作したのは、アート作品が文字どおり⑨Yで機能していることを表わすためでした。

(中略)

2015年に「ゴッホ（ピカソ）より、普通に、ラッセンが好き〜！」というギャグが流行しました。ここで言われているラッセンとは、※バブル期に南国の風景やイルカの絵で※一世を風靡したクリスチャン・リース・ラッセンのこと。日本では、ゴッホやピカソと並んで著名なアーティストのひとりです。

ところが、そのC国民的な知名度とは裏腹に、海外でのラッセンはほとんど無名に近い、ということは何れほど知られていません。

ラッセンに対するいびつな評価は、美術館における作品の収蔵点数から見ても取れます。たとえばゴッホは、世界中の美術館におよそ数百点の油彩画が収蔵されています。さらにピカソは数万点以上の油彩画やデッサンがコレクションされています。にもかかわらず、ラッセンの作品は現在確認されている限り、どこの美術館にもコレクションされていません。

いっぽう、日本国内でラッセンはCゼツダイな人気を博しました。それは、ラッセンの絵が日本人の求めるアートの要件を満たしていたからでした。

まず、日本人にとつてのアートとは、Dコライより「海の外からもたらされるもの」でした。近代以前はおもに中国大陸から、近代以後は欧米からという違いはあるものの、日本人にとつてのアートの多くは「舶来品」だったのです。

そうした視点からあらためてラッセンの作品を見てみると、代表作であるサンクチュアリーに※顕著なように、※絢爛豪華でキラキラと輝く舶来品のように見えてくるのではないのでしょうか？

宗教的な背景も見逃せません。西洋発のアートの歴史は、キリスト教の歴史と切っても切り離せない存在でした。しかし、キリスト教の伝統を持たない日本では、西洋美術を「意味はわからないけど、癒やしを与えてくれる良きもの」として受容します。日本人の多くが美術館で「考えるのではなく感じることを」※是とするのはこのためです。

アート作品に「癒やし」を求める態度は、日本人がアートを鑑賞する際の基本的なポーズとして定着していきました。そしてラッセンは、Dそのような意味でも日本に最適化したアーティストだったのです。

ラッセンが流行した当時、日本の美術界からは彼の絵を「ペラペラで中身がない」と酷評する声が多く上がりました。しかし、むしろ「ペラペラで中身がない」からこそ、その作品は大衆的な人気を博したのだといえます。

戦後の※一億総中流社会がピークを迎えたバブル期において、国家主導の美術館ではなく「大衆」がその作品を買い支えたという点でも、ラッセン作品の受容のされ方には社会の状況が色濃く反映されていきました。一般の人々にとつて、ラッセンの絵はけっして手ごろな値段ではなかったにもかかわらず、日本人が求めるアートの要件を十分に満たしていたため、多くの人々が作品を買い求めました。

1990年代以後、ラッセン作品の販売方法は「※絵画商法」として社会問題化されましたが、そもそも「Z」ということ自体が、歴史的に見てCカッキ的であり、めずらしい状況だったといえます。

このように、歴史・宗教・経済の写し鏡としてラッセンの作品を見ることによつて、なぜあの南国の風景が人々を強く魅了したのかがわかってきます。

また近年のアートの世界でも、こうした写し鏡的な視点からラッセンの「キラキラ・ペラペラ」な作品を再評価する動きが起こりつつあります。ある時代において人々の関心を引いたアーティストをめぐる動向は、当時の社会の状況を※雄弁にあぶり出すことがあるのです。

（著者 造事務所／監修 岡田温司

『ビジネス教養としてのアート』）

※(文中のことばの意味)

- ポップアート：大衆芸術。生産、消費などをテーマとする。
マーケット：市場。
メディア：情報の記録や伝達に用いる、物や装置。
フェルメール：1632～1675年。画家。
シルクスクリーン：版画、印刷の技法。
バブル期：1985～1991年、日本経済の拡大期。
一世を風靡した：ある時代に広く流行した。
顕著：はっきりと明らかにあらわれている様子。
絢爛豪華：きらびやかに輝き華やかで美しい様子。
是とする：正しいこととする。
一億総中流社会：自己を中流とする人が多数を占める社会。
絵画商法：一般的な市場価格より高額で絵画を売りつけ、不当に利益を得ようとする商法。
雄弁：力強く話すこと。

問1 〓 線①～⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

解答番号は裏面の ～

- ① 「オウドウ」
- ② 「ゲンゾン」
- ③ 「ゼツダイ」
- ④ 「コライ」
- ⑤ 「カッキ」

問2 〓 線A「なぜアートがこれほど高く取引されるにいた

ったのか」とありますが、「ウォーホルの作品」が高額で取引される理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

- ① アートに作品そのものとしての価値が存在することは、作品の種類や形式を問わずけっしてあり得ないから。
- ② ある社会の情勢や状況によって芸術に関する株価はつねに変動し、瞬間的に高額になり得るから。
- ③ マーケットにおけるアートの制度はすべて、アートの伝統である彫刻や絵画を基準に作られたものであるから。
- ④ アートの価値の決定には様々な要素が関連するが、少なくとも人気が集中することがあるから。

問3 X に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 2

- ① 絶対 ② 相対 ③ 対称 ④ 対照

問4 ——— 線B「独特の制度」とありますが、その内容を説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 3

- ① 科学的な技術を進歩させることによって、作品の無制限な複製を可能にする制度。
② 作品へのドル記号の印刷を暗黙のルールにすることで、作品の価格の下落を防止する制度。
③ 複製を不可能にすることによって、紙幣の大量発行による紙幣の価値低下を防ぐ制度。
④ 世界に存在する複製作品の数を制限することで、作品の価値を高めようとする制度。

問5 Y に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 4

- ① 印刷された紙幣と同じ原理
② 印刷された紙幣と異なる原理
③ 複製された写真と同じ原理
④ 複製された写真と異なる原理

問6 ——— 線C「国民的な知名度」とありますが、日本においてラッセンが「国民的な知名度」を得た理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 5

- ① 世界中の美術館に数多くのラッセン作品が展示されたことで、人気や評価を獲得する機会が多かったから。
② ラッセンは他のアーティストと異なり、日本人がアートに求める要件を満たすことを重視して活動したから。
③ ラッセンの絵を日本の美術館のみが展示することで、一点ものとしての価値が高まり人気が集まったから。
④ ラッセンの作品は歴史や社会情勢など複数の面において、日本人がアートに望む要素を抱えていたから。

問7 ———線D「そのような意味」とありますが、その内容を説明したものと最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **6**

- ① アートに「癒やし」を求めるだけでなく、「ペラペラで中身がない」と酷評もするという意味。
- ② アートを「中身がない」と酷評することで、意味はわからなくともかえって「癒やし」を感じるという意味。
- ③ 多くのアートが「舶来品」だったという歴史的事情だけでなく、アート観賞に宗教的背景を必要としないという意味。
- ④ アート観賞に「感じることを重視する態度が広まることで、大衆がアートを買い支える」という意味。

問8 **Z**に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **7**

- ① 市井しせいの人々がアートを買う
- ② 無名の画家の作品が国境を越えて流行する
- ③ アートを消費する資金と時間が豊富にある
- ④ 社会がアートの写し鏡となる

問9 (中略)前後の文章の構成を説明したものと最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **8**

- ① 前半の文章では一般常識から問題を提起し、後半の文章では具体例を用いて、主張と論拠を展開している。
- ② 前半の文章と後半の文章とで複数の具体例を挙げ、両者の共通点と差異とを比較することで、考察を進めている。
- ③ 前半の文章と後半の文章とで個別の具体例を挙げ、提起された問題に対し、異なる観点から説明している。
- ④ 前半の文章と後半の文章とで同様の具体例を扱い、一般的な芸術論と筆者独自の芸術論とを、順に精査している。

問10 本文の内容に関する説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。解答番号は **9**

- ① 昨今のアートは高額になる傾向があるが、この傾向も傾向の要因も現代社会に特有のものである。
- ② ドルサインに代表される「エディション」のシステムは、一点ものの作品を重視する価値観を生み出した。
- ③ 美術的な観点からは価値が低いとされた作品が、価値の低さゆえに需要を得るという事態が日本では生じた。
- ④ ウォーホル作品は過剰なまでに高額で取引されているが、過去の日本でも同様の絵画商法が社会問題となっていた。
- ⑤ 写真や映像と絵画や彫刻とは複製が可能かどうかという点で大きく異なり、その価値の基準も根本的に異なる。

第2問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

大学生の青山霜介(僕)は、日本を代表する水墨画家である篠田湖山の目にとまり、弟子入りすることになる。その後、湖山先生とその弟子のもと、水墨画の指導を受けている。

筆を洗い終わると、含んでいた墨の重みが消えて、一円玉一枚分かそれ以下わずかに筆が軽くなる。肩の力が少しだけ抜ける瞬間だ。気持ち新たに、薄墨を穂先に含ませ、さらに一ミリ以下の先端に濃度の違う濃墨を含ませる。その筆を、花にそつと触れるようなわずかな力で揺らし、筆の繊維の中で、さつき筆を洗ったときに含んでいた薄墨と、いま含んだ濃墨を溶け合わせる。生命感はその筆の繊維の中の細かな動きで生まれてくる。最小単位のグラデーショナルだ。

僕はその筆を画面の上にとつと乗せる。すると、筆の中の墨は筆の中から紙の上に動き、みずみずしいその姿を現す。水に溶け、命を模した墨が、真っ白な最小限の現象のほうへ移動していく。現象の中に新しい生命が生まれる。

A それが花びらだ。
滲みながら広がっていく柔らかい蘭の花びらは、描き手にさえ、いつも予測不能の広がりを見せる。その日の湿度や、筆の状態や、紙の状態、墨の出来具合、それから最小単位の調墨を左右する微かな心の動きを反映しながら、半ば意図的に、それでいて半ば偶発的に、花びらの色合いやグラデーショナルは決まっていくな。描き手の手を超える動きが、画面の中で起こる。

そのとき、僕はいつもワクワクする。
自分の手を超えたものが、自分の手によって生まれていると思えたとき、はじめて、そこに命が生まれていると感じる。
命は ① つまるところ意思だけでは成り立たない。意思を大きく超

えたもの、運命がその手順の中に入り込んでいような気がするからだ。

その ② ひたむきな一連の動きの中に流入してきた運命が、最後には生命感を決める。

描けば描くほど、水墨画というのは、その制御不能なものと同わり合う技法であるような気がしていた。自分が機械のように精密で確かな技法を持つていても、最後の最後に絵の良し悪しを決めるのは運命そのものだ。描き手に求められ、描き手が決められるのは、その運命をどう捉えるか、という態度だけなのかもしれない。

僕はこの三週間、ずつと水墨を描きながら、B その制御不能な運命の前で、運命に対する態度を決めかねていた。

認められないと運命に抵抗すべきなのか、このままでいいと運命を受け入れるべきなのか、出来上がってくる一枚一枚はいつもその選択を迫ってきた。

湖山先生は「自分の心の内側を見る」と言ったけれど、僕の心の内側にあつたのはいつも両親のことだった。

なぜ、もつといつしよにいられなかったのさう？

なぜ、もつと多くの時間をいつしよに過ごせなかったのさう？

なぜ、僕はいつしよにいる時間をたいせつにできなかったのさう？

う？

なぜ、僕は取り残されてしまったのさう？

なぜ、僕は生きているのさう？

そして、暗い感情とともにいつも湧き起こってくる疑問は、

「どうしてこんなことが起きてしまったのさう？」
ということだ。

交通事故に巻き込まれ、加害者は死に、被害者である父は死に母は死んだ。そして、僕は取り残された。それは充分に分かっている。僕が事故を引き起こしたわけでもなく、どんな遠因も僕自身には見いだせない。だが、その出来事を取り巻くあらゆる瞬間の中で、両親を救う術が、少なくとも今のこの現実を変える術が、何処かには

なかったらどうか、と、どうしても考えてしまう。ガラスの部屋は、僕の内側にいまもあり続ける。そこにはやはり過去が映り、傷ついた父と母の遺体が映り、制服を着て立ち尽くしている僕の姿が映っている。僕は滲んで広がっていく命を筆の穂先に宿すたびに何度もあのシーンに立ち返る。無数の※リテイクの中で、ほかにあらゆる方法がなかったのだろうか、とただ僕自身の内側で考え続ける。ガラスの部屋は凍てついて、そして曇っていく。孤独の冷たさがその部屋の中をいつも満たしている。

そして両親が亡くなった今、とり遺された僕にどんな選択ができるのだろうか？

X

ただ生き、何かを想うたびに僕がどうすべきなのかを、迫ってくる。僕が答えないから、いつもどうあるべきか、だけを求めてくる。

二年前、僕は立ち止まった。いま、僕は、現象を、運命を、描くたびに眺めている。

その繰り返しの中で、自分の在り方を探している。C
ほかには何もできない小さな人間が、ようやく自分の存在を探すための小さな試みを繰り返している。

なんとか生きようともがいている。

生きる意味を、穂先と紙面との境界線で、運命の中で探し続けている。

僕は花を描き続けた。花を描き終えて、最後に※心字点を打ち、春蘭は終わった。

筆を置いて、しばらくしても僕らは口を利かなかった。彼女は絵を見つめ続け、僕は急激な緊張からまた言葉を失った。

「どうしてこんなに美しいものが創れるの？」

と彼女が言った。

僕は視線を上げた。

それは美しいものを見た喜びではなくて、D
深い憂いを含んだ透明な表情だった。※千瑛の目には描かれたものの意味が分かるのだ。

僕は自分の絵を見た。まるで自分自身を見ているかのよう、何かを感じたりはしなかった。湖山先生のものとも、※翠山先生のものとも違う確かに生きた花がそこに描かれていた。

僕の答えを彼女が待っていることに気づいて、僕はなんとか答えを絞り出した。

「美しいものを創ろうとは思っていなかったから」

と、僕は正直に答えた。僕は美を求めたわけではなかった。僕はただY
としていた。その術が今は水墨だった。だが、

そのすべてを説明することはできない。説明することができないから絵を描いた。

千瑛は少しだけうなずいた。

「この前、お祖父ちゃんが言ったことを私もずっと考えてる。現象とは、外側にしかないものなのか？ 心の内側に宇宙はないのかっていう言葉。青山君には、あの言葉の意味が分かったの？」

僕はそれについてもうまく答えられなかった。湖山先生の問いの答えは、自分自身で見つけるべきものだ。よっぽど困った顔をして

いたのだろう、千瑛は答えを待つのを諦めて、視線を僕から絵に戻した。僕にはそのほうが嬉しかった。

E
「其の馨しきこと蘭のごとし」

千瑛が呟いた。千瑛はそう言って視線を上げた。僕は何のことか分からずに、不可思議な言葉をもう一度◎反芻した。

其の馨しきこと蘭のごとし。

僕が不思議そうな顔をしていると、

「気づいていなかったの？」

と言つて千瑛は驚いた。千瑛は、振り返り壁に押しピンで留めてある翠山先生の絵を見た。

「翠山先生の絵ね。※画賛にそう書いてあるのよ。其の馨しきこと蘭のごとしって。あれも見て、ずっと練習していたのじゃない？」

僕はうなずいた。千瑛は微笑んだ。

「蘭をほめる画賛に、わざわざ、蘭のように馨しい香りがするなん

て、何だか間の抜けた画賛だけれど、青山君にそれを贈ってくださいなのなら、意味はたった一つしかないわ」

千瑛はこちらを振り返って、はつきりと言った。

「あなたがまるでこの蘭のような人物だっていう意味よ」

僕は目を見開き、千瑛を見て翠山先生の絵を見た。そう言われて読んでみれば、確かにそう書いてあるように見える。美しい言葉など思った。翠山先生の最後のあの微笑みをようやく理解できたような気がした。翠山先生は僕を思って、絵を描いてくださったのだ。

「蘭は、孤独や孤高、そして、俗にまみれずひっそりと花を咲かせていく人物の象徴でもある。翠山先生は青山君に蘭を感じたのね」

僕らは二人で同じものをしばらく眺めていた。

考え方を変えれば、この部屋はまるで美術館のようだ。達人の絵が贅沢^{ぜいたく}なほど並べられ壁一面に貼^はられている。無限の自然と墨色の変化が壁を飾っている。

ずっと何もなかったはずの壁に今は水墨画がある。

そして千瑛といっしょに、いまはそれを眺めている。僕はそれだけでなぜだか妙に優しい気持ちになれた。たぶんいま、ガラスの部屋からこの場所を見ても、同じように見えるはずだ。僕の目にはいつも水墨だけはありのまま映っていた。千瑛もまた同じものを見ているのだろうか。F 僕の孤独の中に小さな温度が帰ってきた。

僕はもしかしたら、あの事故以来はじめて、自分の部屋でくつろいでいるのかもしれないと思えた。僕は思わず、その場に座り込んだ。

※(文中のことばの意味)

グラデーション：明暗や色調の段階的な変化。

リテイク：やり直すこと。

心字点：絵画全体の調子を整えるために打つ点。

千瑛：水墨画家。篠田湖山の孫娘。

翠山先生：水墨画家、藤堂翠山^{とうどうすいざん}のこと。篠田湖山も一目置く絵師のひとり。

画賛：絵画に書き添えられている文章や詩のこと。

問1 〓線②〓③の文中における意味として最も適当なものを、あとの①〓④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 10 〓 12

① 「つまるところ」 10

② 一つから最後まで揺らぐことのない結果

③ 一つの視点にこだわり最終的に出した思案

④ いろいろと考え検討した末に行き着いた結論

② 「ひたむきな」 11

① 過度な緊張感を和らげようと努めるさま

② 一つの物事だけに心を集中しているさま

③ 迷いながらも気持ちを整えようとするさま

④ 困難なことに立ち向かおうとする勇ましいさま

③ 「反芻」 12

① 繰り返し返して考え味わうこと

② 反発して聞き入れないこと

③ 不意を突かれて身構えること

④ 意味が分からず呆然とする事

問2 〓線A「それが花びらだ」とありますが、「花びら」を説明したものととして最も適当なものを、次の①〓④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13

① 描き手の高度な技術はもろんのこと、描き手の思惑によって変幻自在に形作られるもの。

② 描き手の意思により決まる要素が多く、機械的で正確な技術によって鮮明に生み出されるもの。

③ 描き手の心の状態が反映されながらも、描き手の意思では如何ともしがたい生命感を宿すもの。

④ 描き手の生きざますべてが反映され、つねに描き手の才能に大きく左右され出来上がるもの。

問3 〓線B「その制御不能な運命の前で、運命に対する態度を決めかねていた」とありますが、その理由として最も適当なものを、次の①〓④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14

① 水墨画を描き始めたばかりの僕は、予測不能なものと向き合うだけの技術を持ち合わせていないから。

② 両親の死によって取り残されてしまった僕は、今後の自分の在り方に対する答えを模索し続けているから。

③ 出来上がった水墨画を目にした僕は、水墨画を描き続けていく人生を想像することができないでいるから。

④ 湖山先生の「心の内側を見ろ」という言葉を前にした僕は、その意味をどうとらえるべきかに迷っているから。

問4 X に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 15

- ① 運命はいつも僕に態度を求める
- ② 運命はときに僕の態度を決めつける
- ③ 僕の態度によって未来の運命は決まる
- ④ 僕の態度によって過去の運命は変えられる

問5 ———線C「ほかには何もできない小さな人間が、ようやく自分の存在を探すための小さな試みを繰り返している」とありますが、その内容を説明したものととして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 16

- ① 湖山先生との出会いは両親の死による導きであると考え、僕が、何の取り柄もない自分にはこの水墨画に人生をかけるしかないともがき苦しんでいる。
- ② 両親の死によって孤独な生活を余儀なくされた僕が、水墨画に出会い絵を描くことによって、その過去の深い悲しみを何とか紛らわせようとしている。
- ③ 湖山先生に認められ弟子入りしたものの納得できる絵を描けずにいる僕が、一つひとつ技法を学ぶことでしか自分の存在価値を示せないと悩んでいる。
- ④ 両親の死によって今までの人生が一変してしまった僕が、水墨画に出会い絵を描くことによって、自分という存在や生き方をなんとか求めようとしている。

問6 ———線D「深い憂いを含んだ透明な表情」とありますが、この千瑛の「表情」からわかることとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 17

- ① 水墨画の経験は浅いが、画面に向き合う彼の純粹な姿勢こそが生き生きとした躍動感を与えているということ。
- ② 基礎を習得しようとする懸命さから生じる彼の苦悩が、見る者に感動を与える美しさに反映されているということ。
- ③ 過去から生じる深い孤独や悲しみと彼が向き合うことが、作品をこの上なく美しいものに行っているということ。
- ④ 孤独な過去の人生と水墨画にかける彼の未来とが重なり、より不安を募らせる運命が透けて見えるということ。

問7 Y に入る最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 18

- ① 自分自身の運命に従おう
- ② 自分自身の答えを探そう
- ③ 自分自身の過去を断ち切ろう
- ④ 自分自身の将来に抵抗しよう

問8 ———線E「其の馨しきこと蘭のごとし」とありますが、

この言葉をめぐる「僕」と千瑛のやりとりからわかることを説明した最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **19**

- ① 蘭を書き終えた僕の緊張感を和らげるために、先生の画賛を話題にした千瑛に心救われた思いでいる。
- ② 孤独の中でひっそりと生きる僕に、蘭をほめる画賛を記してくれた先生の心のぬくもりを感じている。
- ③ 先生の画賛が自分の存在感を表すものだと千瑛から聞かされ、その真意がわからずに戸惑っている。
- ④ 先生の画賛の言葉がきっかけとなり、壁一面を埋め尽くす自分が描いた絵の出来映えに満足している。

問9 ———線F「僕の孤独の中に小さな温度が帰ってきた」と

ありますが、その内容を説明したものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **20**

- ① 両親の死後、立ち止まったままだった僕は、水墨画を描くことによって、生きる意味を探し続けていた。そして、水墨画を介して出会った人たちとの心の交流によって、少しは生きる意味を見いだしかけている。
- ② 両親の死後、深い悲しみに打ちひしがれていた僕は、水墨画を描くことによって気を紛らす日々を送っていた。しかし、思うような絵を描くことができず、不安は増すばかりで感情的な高ぶりを抑えられずにいる。

③ 水墨画によって少しでも両親の死を忘れようとしていた僕は、描けば描くほど運命の皮肉さを痛感してしまうことになった。そのため、先生や千瑛と関わることに意味を見いだせず、再び自分の殻に閉じこもろうとしている。

④ 水墨画の技術を習得することで人生をやり直そうとしていた僕は、技術の向上が両親の死を忘れる術にはならないと思いき、次の目標を探そうと気分が高まりつつある。

問10 本文の内容と表現に関する説明として最も適当なものを、

次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は **21**

- ① 「一円玉一枚分」、「二ミリ以下」、「最小単位」という数値的表現から、水墨画の描き手には鋭い感性と繊細な技術が求められているということが直接的にわかる。
- ② 「筆の中の墨は筆の中から紙の上に動き、みずみずしいその姿を現す」という表現は、あたかも花の生命感が僕の筆致を導いているかのように感じさせている。
- ③ 「ガラスの部屋」という比喻表現から、両親の死による深い悲しみの中で心を閉ざしている僕の孤独さが、もろく崩れやすいものであるということがわかる。
- ④ 「この部屋はまるで美術館のようだ」という表現は、両親を失い深く傷ついた僕の心とは対照的に、分不相応な人生を送る現実に対する不可思議さが醸し出されている。

第3問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ある日、山へ仕事に入った顔に大きな瘤のある翁は、雨風がひどくて帰ることができず、しかたなく山の中の木のほら穴で泊まることになった。しばらくすると鬼たちの宴会がはじまり、盛り上がる宴会にがまんできなくなった翁は、突然、鬼たちの前に出ておどりを始めた。翁の軽快なおどりに鬼たちは……

※横座の鬼より始めて、集まりゐたる鬼ども、あさみ興ず。横座の鬼の曰く、「多くの年比この遊びをしつれども、いまだかかる者にこそあはざりつれ。今よりこの翁、かやうの御遊びに必ず参れ」といふ。翁申すやう、「沙汰には及び候はず、参り候ふべし。この度にはかにて、納めの手も忘れ候ひにたり。かやうに御覧にかなひ候はば、^A静かにつかうまつり候はん」といふ。横座の鬼、「^aいみじく申したり。必ず参るべきなり」といふ。奥の座の三番にゐたる鬼、「この翁はかくは申し候へども、参らぬ事も候はんずらんと覚え候ふに、^B質をや取らるべく候ふらん」といふ。横座の鬼、「[※]然るべし、然るべし」といひて、「何をか取るべき」と、おのおの言ひ沙汰するに、横座の鬼のいふやう、「かの翁が面にある瘤をや取るべき。瘤は福の物なれば、それをや惜しみ思ふらん」といふに、翁がいふやう、「ただ目鼻をば召すとも、^Cこの瘤は許し給ひ候はん。年比持ちて候ふ物を、故なく召されん、^⑥すぢなき事に候ひなん」といへば、横座の鬼、「かう惜しみ申すものなり。ただそれを取るべし」といへば、鬼寄りて、「さは取るぞ」とてねぢて引くに、[※]大方痛き事なし。さて、「必ずこの度の御遊びに参るべし」とて、晝に鳥など鳴きぬれば、鬼ども帰りぬ。翁顔を探るに、年比ありし瘤跡なく、[※]かいのごひたるやうに[※]つやつやかなかりければ、木こらん事も忘れて家に帰りぬ。妻の姥、「こはいかな

りつる事ぞ」と問へば、しかじかと語る。「[◎]あさましきことかな」といふ。

隣にある翁、左の顔に大きな瘤ありけるが、この翁、瘤の失せたるを見て、「こはいかにして瘤は失せ給ひたるぞ。いづこなる医師の取り申したるぞ。我に伝へ給へ。この瘤取らん」といひければ、「これは医師の取りたるにもあらず。しかじかの事ありて、鬼の取りたるなり」といひければ、「我[※]その定にして取らん」とて、事の次第をこまかに問ひければ、教へつ。この翁いふままにして、その木の[※]うつほに入りて待ちければ、まことに聞くやうにして、鬼ども出で来たり。ゐまはりて酒飲み遊びて、「いづら、翁は参りたるか」といひければ、この翁恐ろしと思ひながら揺るぎ出でたれば、鬼ども、「ここに翁参りて候ふ」と申せば、横座の鬼、「こち参れ、とく舞へ」といへば、さきの翁よりは[※]天骨もなく、おろおろ奏でたりければ、横座の鬼、「この度はわろく舞うたり。かへすがへすわろし。その取りたりし質の瘤返したべ」といひければ、末っ方より鬼出で来て、「質の瘤返したぶぞ」とて、今片方の顔に投げつたりければ、^④うらうへに瘤つきたる翁にこそなりたりけれ。

※(文中のことばの意味)

(『宇治拾遺物語』)

横座の鬼 …… 鬼の親分。

あさみ興ず …… 目をみはつておもしろがった。

年比 …… 長年。

沙汰には及び候はず …… 仰せにも及びません。

納めの手 …… 舞い納めの型、手ぶり。

御覧にかなひ候はば …… お気に召していただけますならば。

然るべし…その通りだ。

言ひ沙汰する…考えを言い合う。

故なく…理由もなく。

大方…まいったく。

かいのごひたるやうに…ぬぐい去ったように。

つやつや…すっかり。

その定にして…そのようにして。

うつほ…ほら穴。

天骨もなく…踊りの才能もなく。

問1 ——線③④の文中における意味として最も適当なもの

を、あとの①～④のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

解答番号は 22 ～ 25

① 「いみじく」 22

② かなしく ② うれしく

③ すばらしく ④ うつくしく

② 「すちなぎ」 23

① つまらない ② どうしようもない

③ はずかしい ④ わけがわからない

③ 「あさましき」 24

① がっかりな ② 驚きあきれた

③ 情けない ④ おもしろい

④ 「うらうへ」 25

① 表と裏 ② 上と下

③ 右と左 ④ 前と後

問2 ——線A「静かにつかうまつり候はん」の現代語訳とし

て最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 26

① さっぱりと舞ってお見せしましょう

② じっくりと舞ってお見せしましょう

③ ひっそりと舞ってお見せしましょう

④ こっそりと舞ってお見せしましょう

問3 ——線B「質しち（約束の保証のために預けておく品物）」

とありますが、鬼が「質」を取ろうとした理由として最も適当

なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 27

① 翁は次回も必ずくるというが、信用できないから。

② 翁は次回はもっと上手に踊るといふが、信用できないから。

③ 翁は鬼の宴会のことを他人に話さないといふが、信用でき

ないから。

④ 翁は鬼の宴会に友だちを連れてくるというが、信用できな

いから。

問4 線C「この瘤は許し」とありますが、翁が「瘤」を取られることを許してほしいと言った理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 28

- ① 瘤を取られると上手に踊ることができないから。
- ② 瘤を取られると目も鼻も取られるから。
- ③ 瘤を確実に取らせようとしたから。
- ④ 瘤を痛くないように取ってもらいたいから。

問5 には、作者の感想を表したものが入りますが、その内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 29

- ① 他人をばかにしてはならないということ。
- ② よい友人を選ばなければならないということ。
- ③ 他人の物をうらやんだりしてはならないということ。
- ④ 何事にもがまんしなければならぬということ。

これで問題は終わりです。